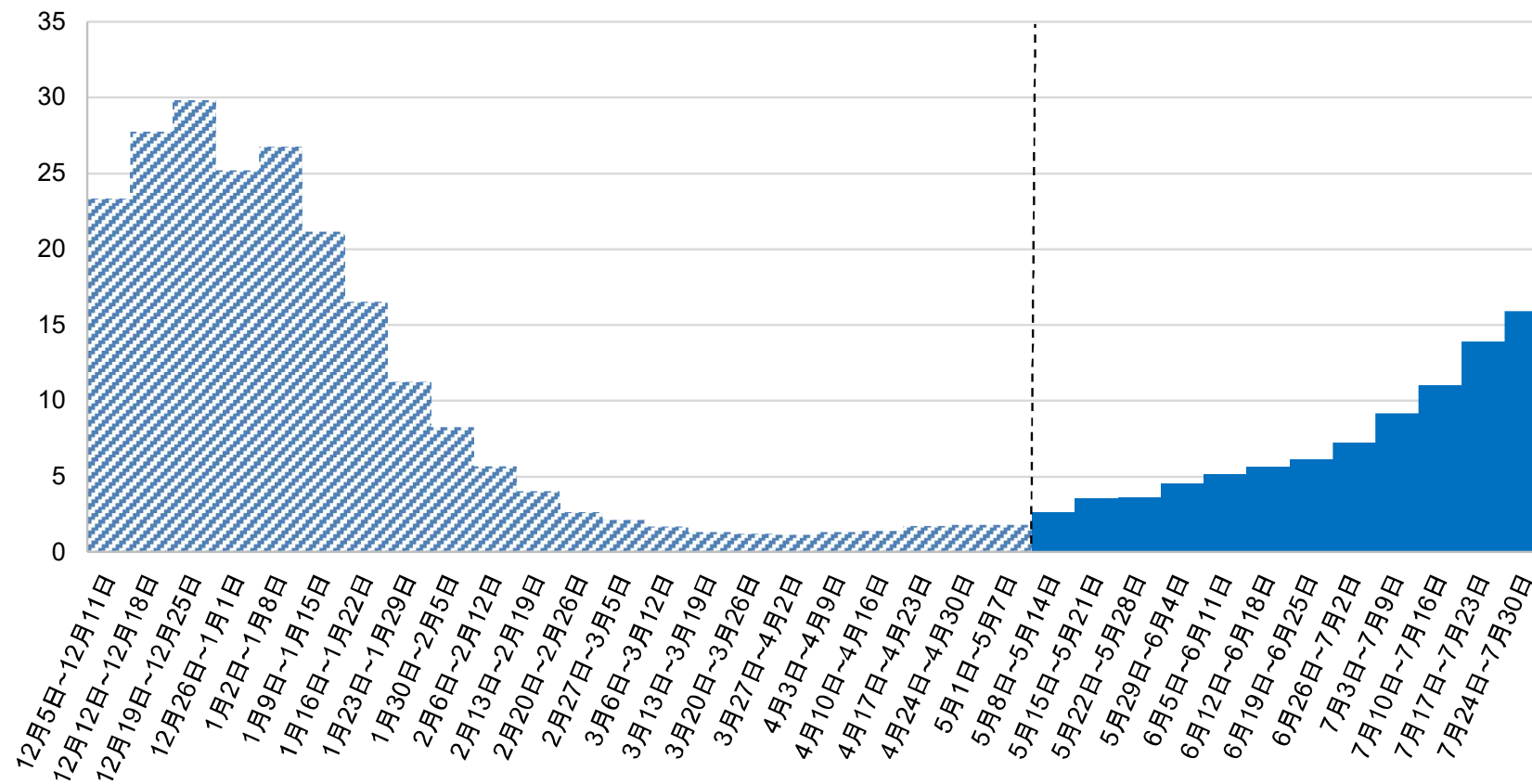


新型コロナウイルスを理解する

安全に訪問を実施するために

- コロナウイルス感染の流行状況
- 新型コロナウイルスの感染様式
- 感染を予防するために
 - 顔を守る：マスク・フェイス（アイ）ガード
 - 換気が大切
- その他

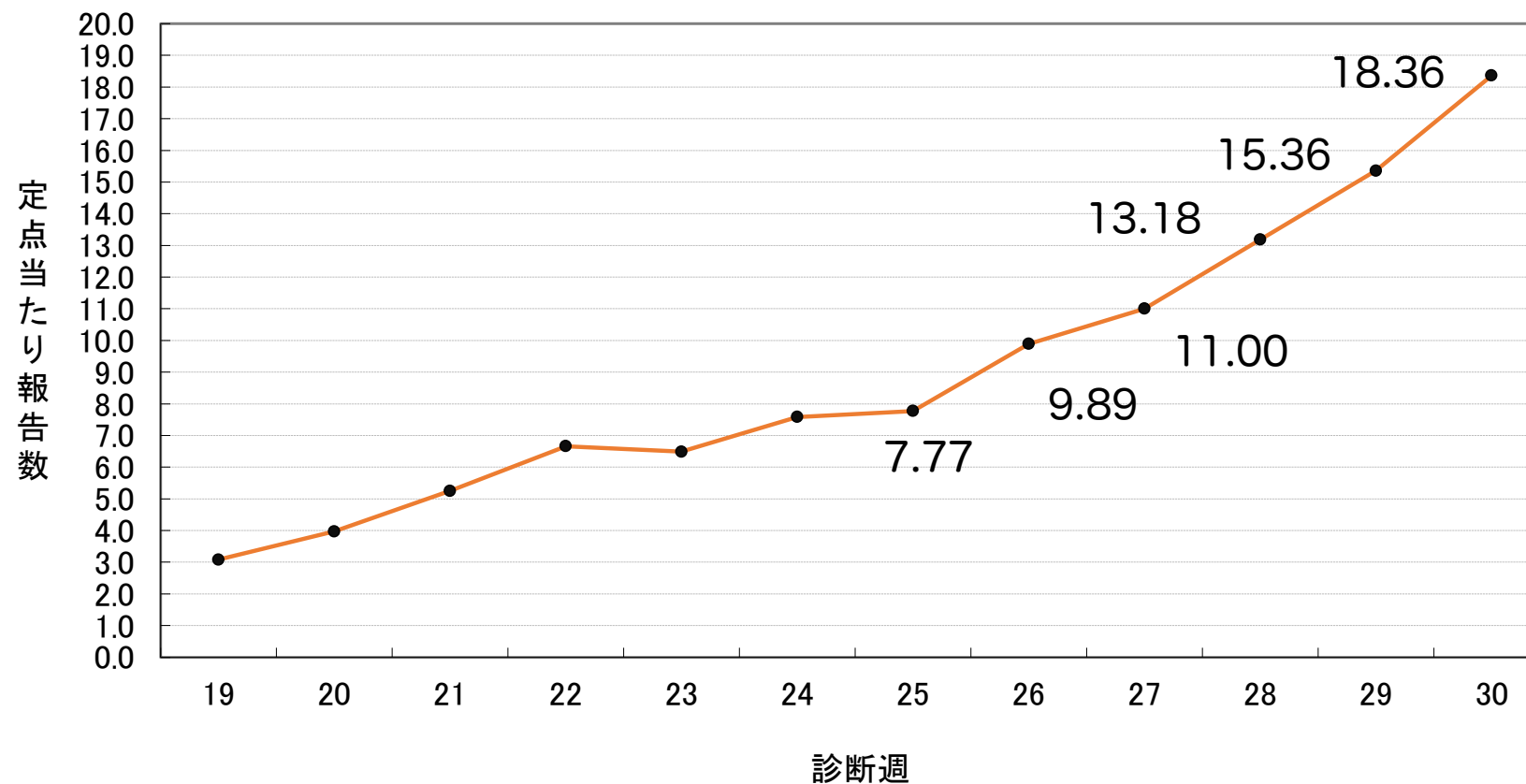
新型コロナウイルス感染症定点あたり報告数(全国)推移



全国報告数 78,502 人
 定点あたり報告 15.91 人

新規入院患者数 11,146 人/週

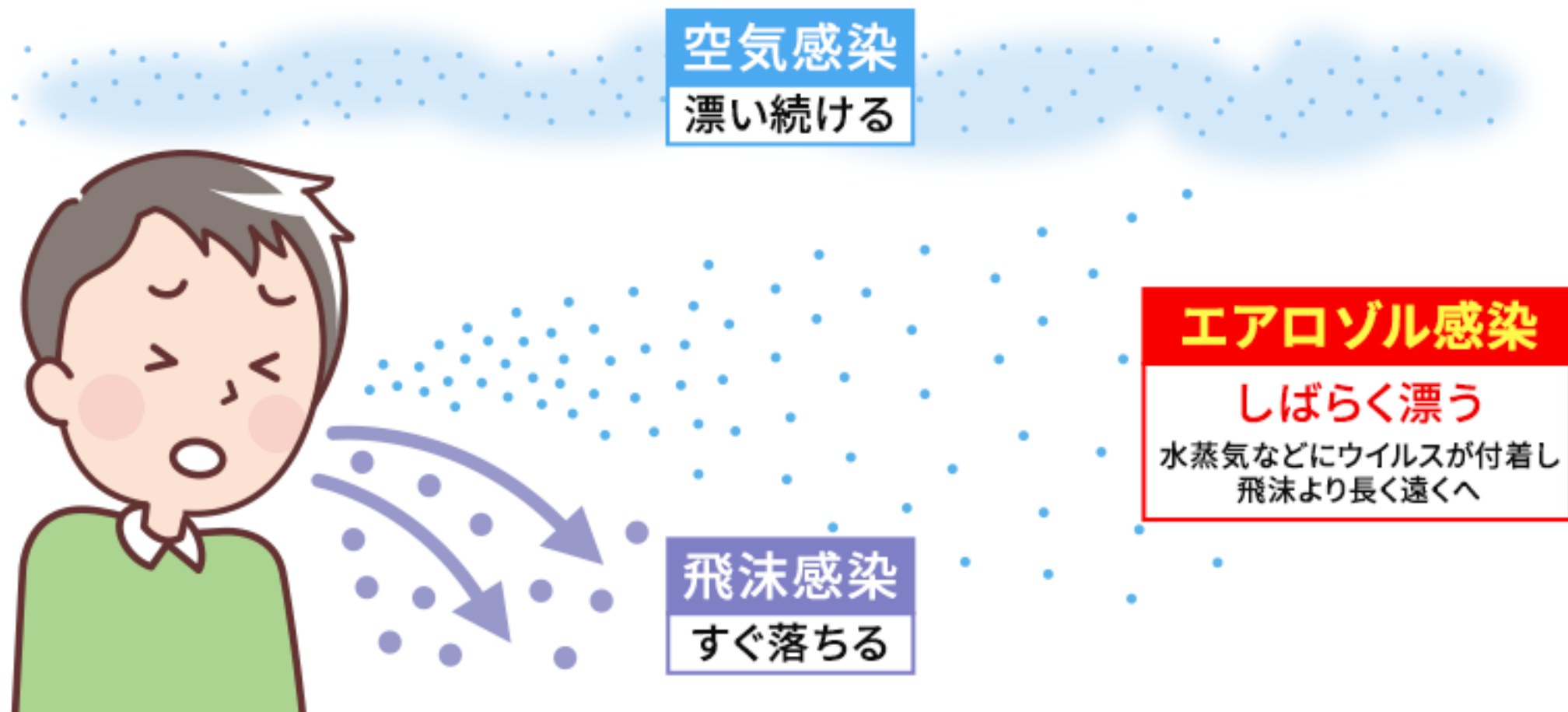
2023年 千葉県の新型コロナウイルス感染症定点あたり報告数



定点報告数
 3,728人

コロナウイルスの感染経路がわかってきた

エアロゾル感染とは



飛沫感染・エアロゾル感染が主
接触感染のリスクは低い

標準予防策とは

接する利用者の感染症の有無に関わらず、分泌物、排泄物、傷のある皮膚や粘膜はすべて感染源とみなして予防策をとること

具体的には、

1. 感染しているかどうかにかかわらず、血液などの体液(汗を除く)は、すべて感染性があるものとみなし、素手で扱わない
2. 粘膜面も素手で扱わない
3. 正常でない皮膚(発疹や傷など)には素手で触らない

の3つのポイントを守り、こまめに手洗いをすること

感染経路別の予防策

	接触感染予防策	飛沫感染予防策	空気感染予防策
感染様式	物品を介しての 感染	しぶきを浴びて 感染	空気中に漂う病 原体を吸い込む ことで感染
主な病原体	ノロウイルス・ MRSA・疥癬	インフルエンザ 風疹・ おたふくかぜ	結核・麻疹・ 水痘
予防策	手洗い・手袋・ ガウン	マスク・ アイシールド・ 距離をとる	N95マスク・ 換気・隔離

いずれの経路でも、最終的に眼・鼻・口から体内に入り、感染します



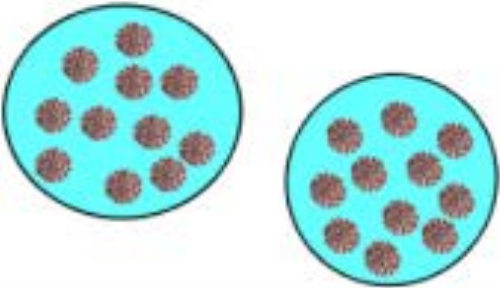
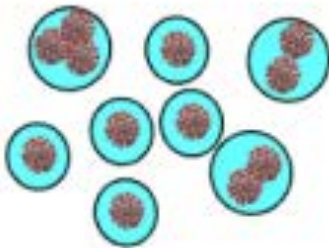
0.004~0.008mmの微粒子だけを見ると
せきから20分たっても空中を漂っていた



室温マイナス25℃ 高速度カメラで
とらえた息と飛沫(しぶき)の動き

2m程度で落下する飛沫以外にエアゾル飛沫が出ているのが分かる

表 1. 呼吸器から分泌される飛沫、エアロゾルおよび飛沫核の比較

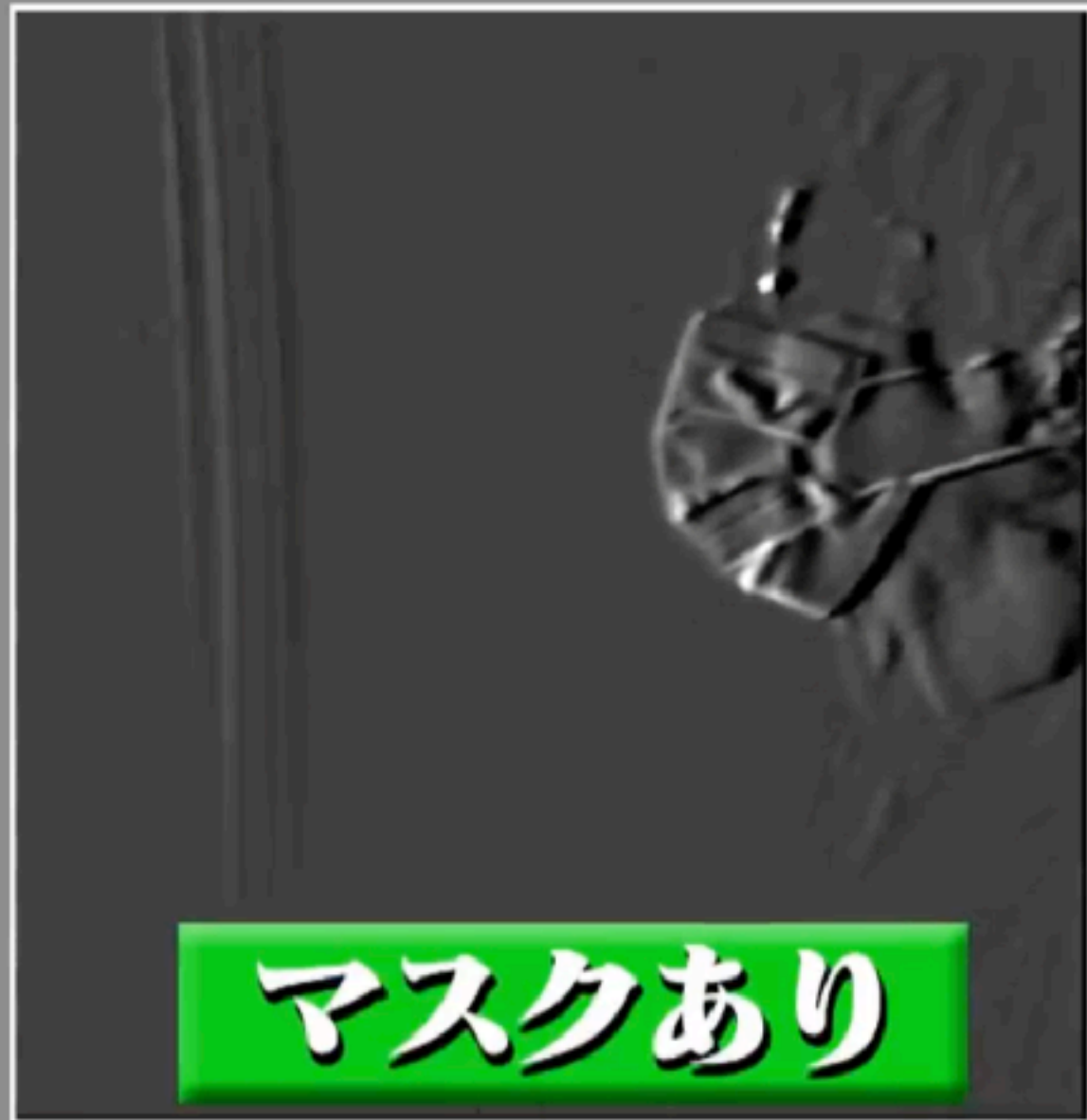
排出物	飛沫	エアロゾル	飛沫核
イメージ			
大きさ (粒子径)	5 μ m以上	5 μ m未満	1~0.1 μ m
到達範囲	2m以内	通常6m以内	共有空間全体
代表的病原体	<u>新型コロナウイルス</u> 、 インフルエンザウイルス、 マイコプラズマなど	<u>新型コロナウイルス</u>	結核菌、麻疹ウイルス、 水痘・带状疱疹ウイルス
感染対策	飛沫感染予防策	飛沫感染予防策＋ エアロゾル発生手技 時などへの対策、 換気	空気感染予防策

NHK

高感度カメラで撮影

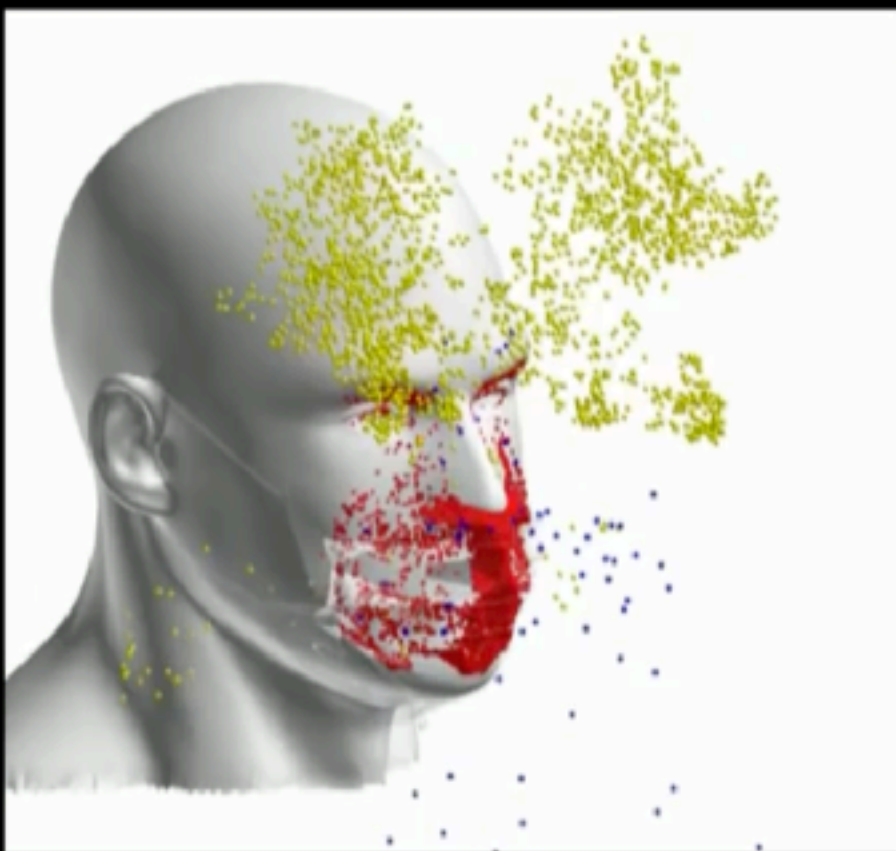
会話

マイクロ飛沫は、咳やくしゃみだけでなく、会話でも発生する

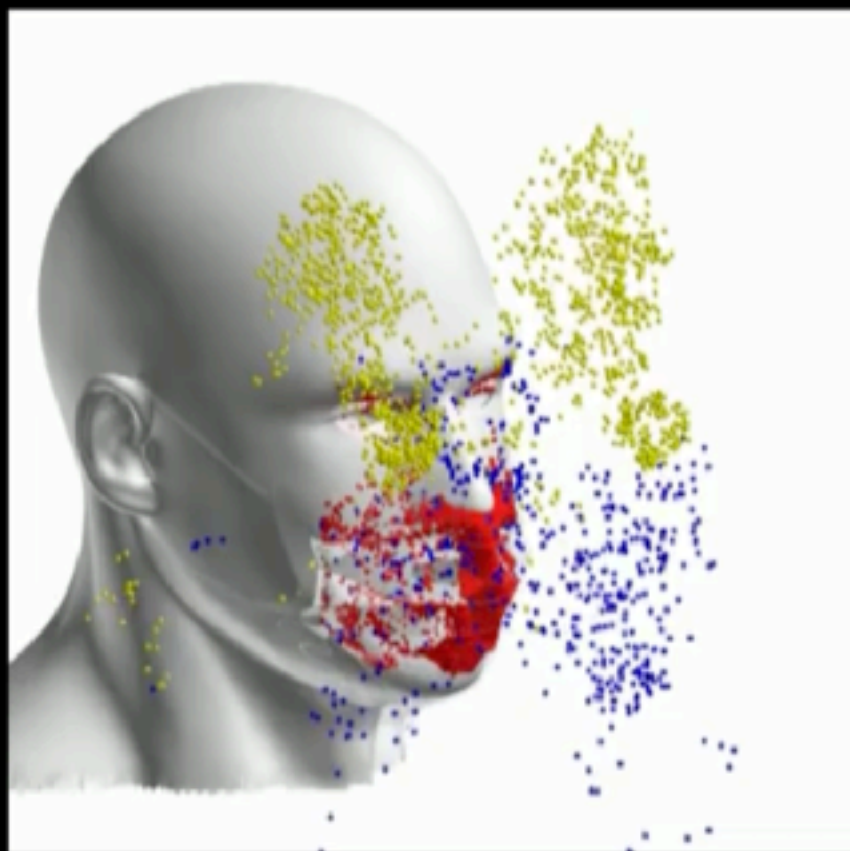


症状がある人がつけるとリスクを軽減する効果

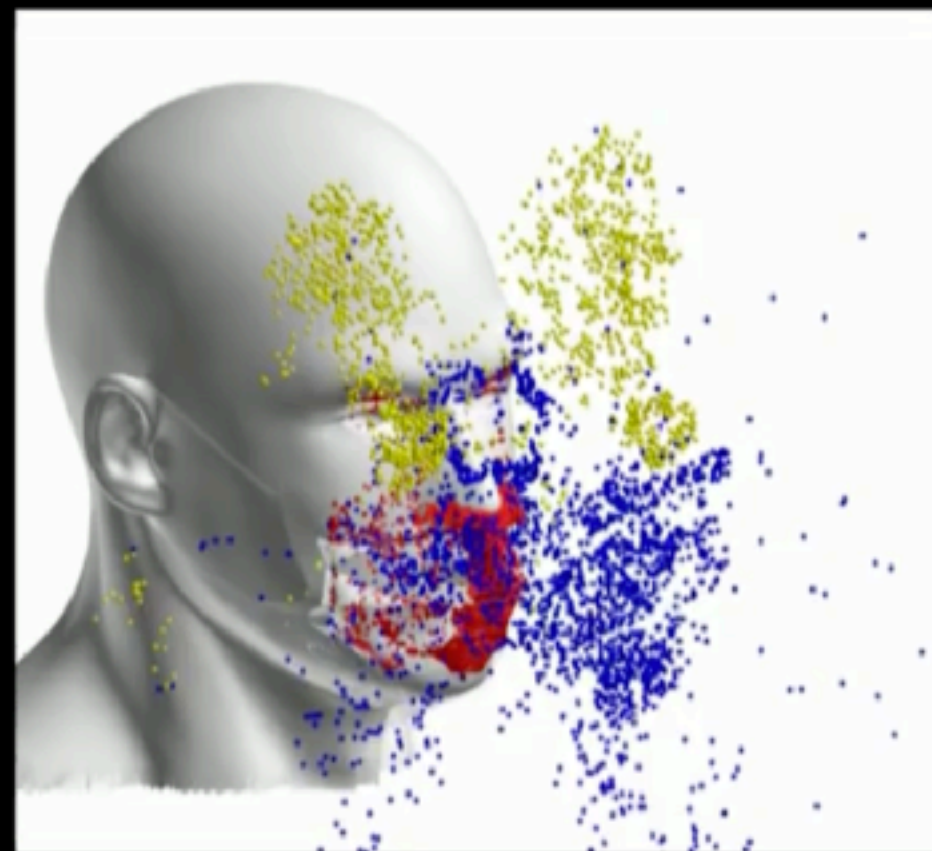
マスクの種類による飛沫拡散予防の効果



不織布マスク



ポリエステル製



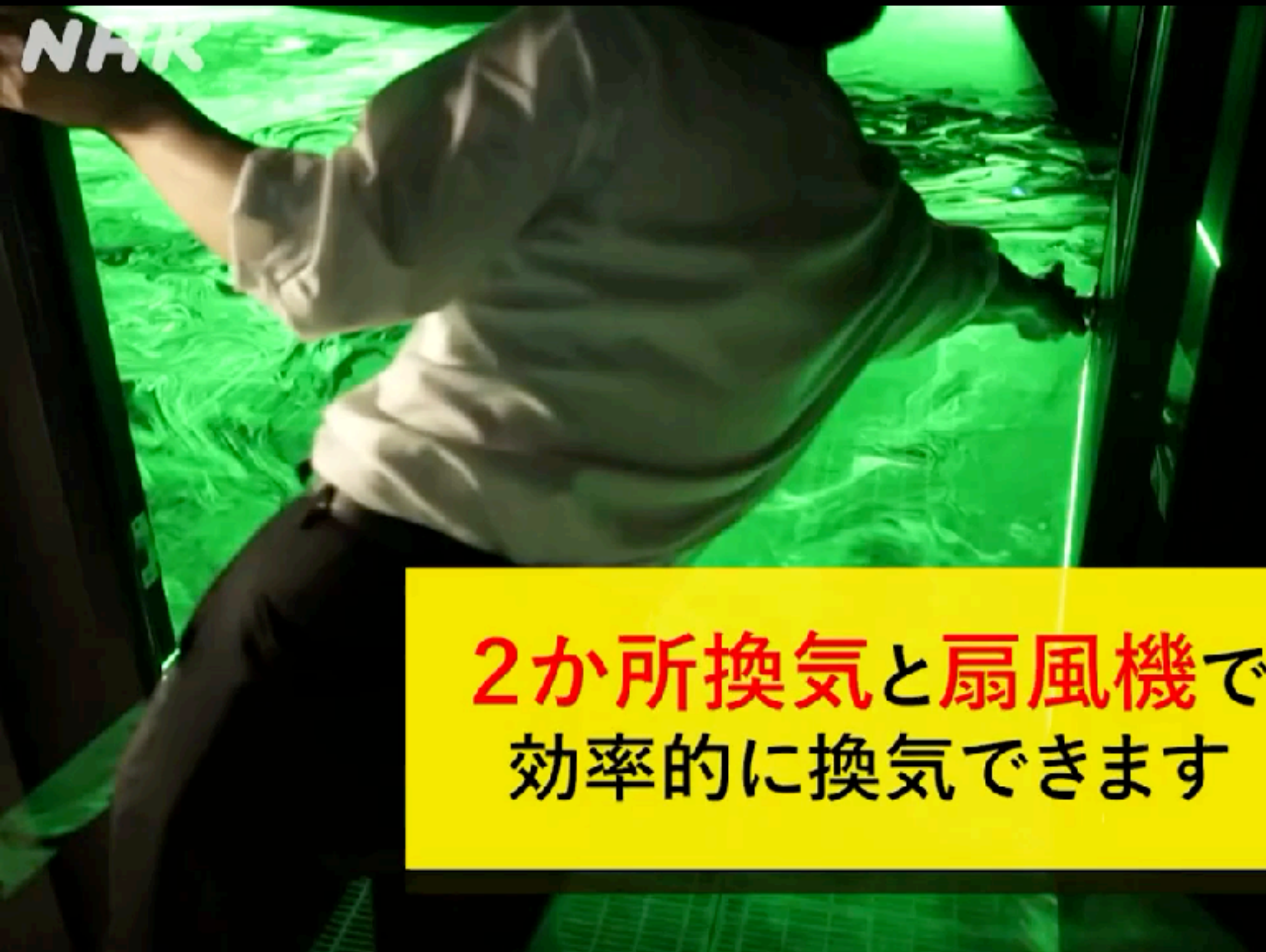
綿製

赤がマスクにトラップされた粒子、黄色がマスクの隙間から漏れ出た粒子、
青がマスクを通り抜けた粒子を示す

不織布マスクは、マスクを通り抜ける粒子をほぼ無くしている事が分かる

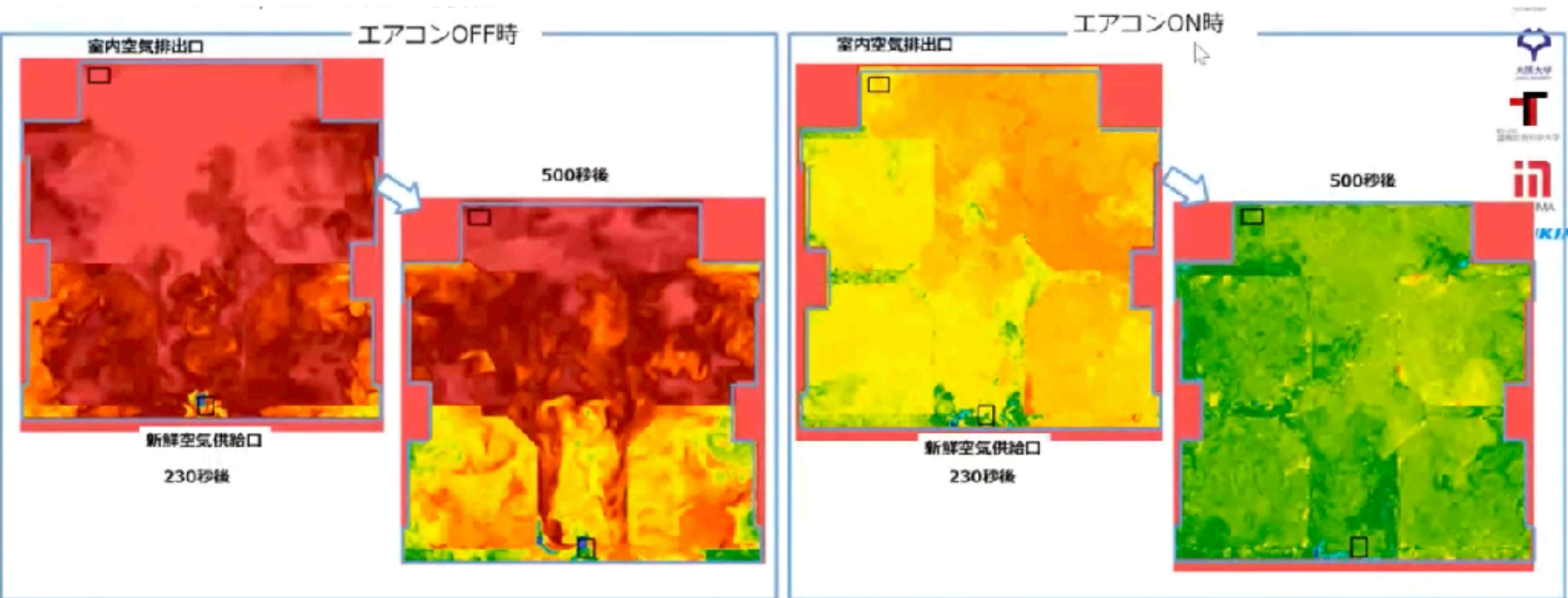
マスクの吸い込みを防ぐ効果

換気について



**2か所換気と扇風機で
効率的に換気できます**

エアコンによる換気効果の比較



提供：理研・神戸大，協力：鹿島建設・阪大

エアコンそれ自体には換気効果はないが、
空気を対流させる事で換気効率が上がる

エアゾル感染対策

不織布マスクと換気が重要

- マスクは、飛沫・エアゾルとも、周囲に広げない効果がある。
飛沫に対しては、身を守る効果も期待できる
- フェイスシールドは、飛沫感染に対して眼を守るためと考える
- エアゾル対策には、換気が重要。
 - 扇風機などで空気の流れをつくると効果的
 - エアコンも室内の空気を対流させることで、換気を促進する

ウイルスは眼・鼻・口から侵入する

顔の粘膜を守る



手をきれいにする



汚れた手で顔を触らない

目・鼻・口さえ守っていれば、感染は防げる



接触感染

ハイタッチサーフェスに注意
(不特定多数の人がよく触る場所)

現在、新型コロナウイルスでは、物を介した感染（接触感染）はほとんど無いと考えられている

訪問時に気をつけること

- 物品を介しての感染は、ほとんど無いことから、ウイルスを持ち出す・持ち込むことに、あまり神経質にならなくて良い。
 - 気道分泌物で明らかに汚れた時は、洗浄 or 廃棄するが、それ以外は、手洗いなどの標準予防策で十分です。
 - 気になる時は、アルコール/次亜塩素酸でさっと拭きましょう
 - コロナ患者の際は、使い捨てエプロンを使いましょう
- 尿・便からの感染もほとんど無い（免疫抑制療法中の方は注意）ため、通常の対策で良い
- 訪問者自身が感染しないことが（他に広げないという観点からも）大切です。
- 食事介助・口腔ケアは正面に立たず、後側面から行う
- マスクをしないで大声で話す・咳がひどい時には、距離をとって対応し、積極的に換気を

新型コロナ患者・疑い患者診療時の個人防護具の選択について（入院・外来共通）

1. サージカルマスク：常に着用

（交換は汚染した場合や勤務終了時等）

2. ゴーグル・フェイスシールド：

飛沫曝露のリスクがある場合（※1）に装着

（交換はサージカルマスクと同様）

（※1）患者がマスクの着用ができない場合、
近い距離での処置、検体採取時等

3. 手袋とガウン：患者および患者周囲

の汚染箇所に直接接触する可能性がある場合に装着（患者および患者周囲の汚染箇所に直接接触しない場合は不要）

4. N95マスク：エアロゾル発生手技（※2）

を実施する場合や激しい咳のある患者
や大きな声を出す患者に対応する場合
に装着

（※2）気管挿管・抜管、気道吸引、ネーザルハイフロー装着、NPPV 装着、気管切開術、心肺蘇生、

用手換気、上部消化管、内視鏡、気管支鏡検査、ネブライザー療法、誘発採痰など

【個人防護具の着脱の例（外来）】



マスク、フェイスシールドは、汚染※した場合や勤務終了時などに交換

手袋は患者毎に交換

ガウンは、手以外の部位が患者に直接接触することが見込まれる場合や、大量の飛沫の曝露が見込まれる場合のみ装着し、その都度交換する。

サージカルマスク、フェイスシールド、手袋を基本とし、ガウンは必要時のみ装着

※汚染した場合とは、大量の飛沫への曝露、患者に直接接触した場合など

（出典）一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会「診療所における効果的な感染対策の好事例の紹介」（2022年11月28日）

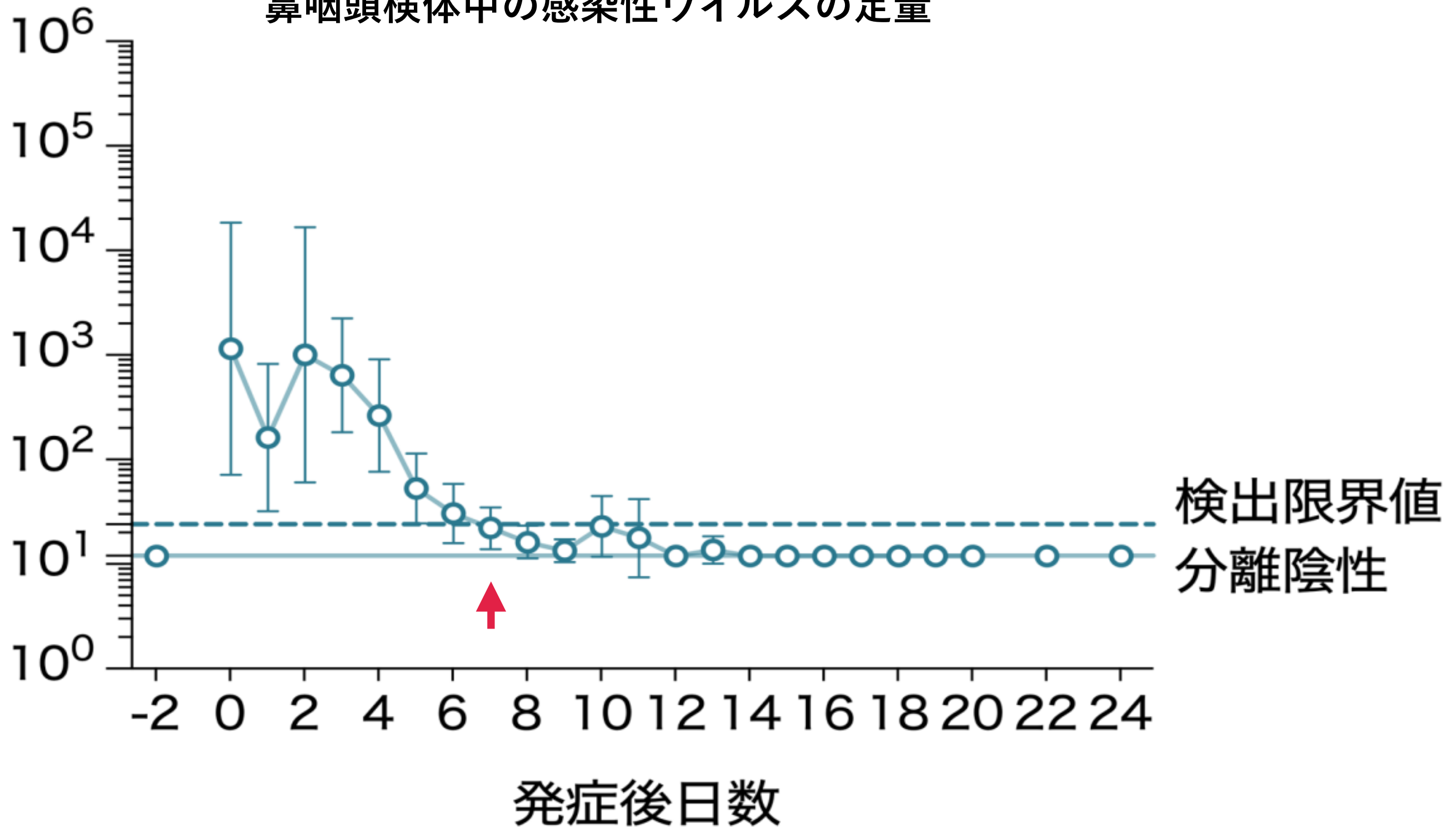
接触程度に応じた個人防護具の選択

場面	サージカルマスク	N95マスク	手袋	ガウン またはエプロン	アイシールド
通常 (受付・患者搬送)	○				
軽度の身体接触 (診察・検温)	○				
濃厚な身体接触 (リハビリ・食事介助)	○		○	○	△ (患者がマスク未着用時)
エアロゾル発生時 (口腔ケア, 吸引)		○	○	○	○
環境清掃	○		○		

広島県HPより

エアゾルを大量に発生させる状況（激しい咳・吸引・口腔ケア・食事解除）では、
・正面に立たない・換気をよくするなどに対応することになりますが、
リスクが高い場合は感染リスクがなくなるまで医療機関で診ることも選択です

鼻咽頭検体中の感染性ウイルスの定量



発症後7日間は、感染させるリスクがあると考えられる

→ 発症8日目から出勤可とし、10日目までは、十分注意して行動する

職員間の感染を防ぐ

- ユニバーサルマスキング
- 適切なソーシャル・ディスタンス
 - 特に食事の際に注意
- 手洗いの徹底
 - アルコールが効果的
- 換気が大切

①換気の悪い
密閉空間



②多数が集まる
密集場所



③間近で会話や
発声をする
密接場面



Q & A

- 感染が心配
必要十分なPPE、感染対策（飛沫・エアゾル対策）、換気に気をつけてください。接触感染対策はささっとアルコール消毒で十分
- 訪問者に感染させないか心配
 - あなたが感染者でない限り接触感染が問題ですが、その確率は低いです
- コロナ患者宅を訪問する際の基本
 - 出入りを最小限に、最低限の処置は行う（ケアマネから家族へ説明も）
 - 具合が悪ければ、かかりつけ医に相談・医療機関への受診を勧める
 - 訪問したらまず換気。エアコンをつけましょう。あらかじめ了承をいただいておくといい。
 - 個人防御具は、基本使い捨て（訪問は最後が良いでしょう）
 - 自分が感染しない事が、最も必要な感染対策です。

参考となる動画

- 厚生労働省
訪問介護職員のためのそうだったのか 3本（各9分）
- エリエール
つけ方次第で効果が上がる！マスクのより良いつけ方（5分）
- 内閣官房
新型コロナ 効果的な換気のポイント（3分）
- 広島県
新型コロナウイルス感染症患者療養中の病棟内等における感染対策について：入院での対応（14分）